



宮古市

教育委員会 だより

郷土を誇り次代につなぐひとづくり

発行 宮古市教育委員会

〒027-8501

宮古市宮町一丁目1番30号

0193-62-2111

NO.24

令和5年10月15日号

～教育長室から～

特色ある児童生徒の交流事業 教育長 伊藤 晃二

宮古市では、沖縄県多良間村、北海道室蘭市、秋田県大仙市と児童生徒の交流事業を実施しています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、事業は中止となっていました。今年度から再開しました。

多良間村とは、164年前の商船「善宝丸」の絆が縁です。室蘭市とは、フェリーでつながった、となりまちの縁です。また、大仙市は東日本大震災での復興支援が縁です。

小中学生が現地の方々との交流を通して学ぶ体験は、貴重な財産であるとともに、改めて宮古の良さを発見する機会でもあります。今後も息の長い交流学习を継続していきます。



～新教育委員の紹介～

就任にあたって

教育委員 大村 光代

このたび、教育委員を拝命いたしました大村光代と申します。微力ではございますが、宮古地域の子どもたちのため、精一杯、務めさせていただきたいと思っております。

子どもたち一人一人が未来に向かって夢や希望を思い描き、活き活きと活動できる環境づくり、学びたいという気持ちに応えられる地域の学びの場づくり、そして、情操を培う学びの充実の中、感じる力や心の育成を促す機会づくり等、子どもたちの様々な学びの充実、成長へのサポートの一端に携わらせていただければと願っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

橋本美紀教育委員の任期満了に伴い、大村光代（てるよ）さんが教育委員に任命されました。任期は令和5年8月30日から令和9年8月29日までの4年間で。



～退任のご挨拶～ たくさんの笑顔に会えて 橋本 美紀

平成27年から2期8年、教育委員を務めさせていただきました。

その間、学校、生徒を取り巻く環境の目まぐるしい変化には驚くばかりです。そのなかで、たくさんの子どもたちの笑顔を見ることができました。学校公開ではにかんだ笑顔、伝承芸能を舞う得意満面の笑み、地産地消のおいしい給食を頬張る満足気な笑顔、ニュートン・スクールでのキラキラした笑顔。そこには先生方、関係者の方々の支えがあり、御指導の賜物です。心から感謝いたします。

コロナ禍で不本意なことを強いられ、翻弄され、抗えない事実に向き合い、それでも皆と闘ってきました。今後も、学校、家庭、地域が連携し未来を担う子どもたちの成長を支え見守っていくよう願っております。

多くの方々と関わり、助けられて任期を全うすることができました。本当にありがとうございました。



第37回 宮古サーモン・ハーフ マラソン大会！ 日本陸上競技連盟公認の 新コースで開催！



開催日 **11月12日(日)** ※雨天決行

会場 宮古消防署前広場 ほか (宮古市五月町2-1)

◆スタート	時間	スタート場所
① 5キロの部	8:50	宮古地区合同庁舎前
② ハーフマラソンの部	9:30	宮古運動公園 陸上競技場
③ 10キロの部	9:30	宮古地区合同庁舎前
④ ペアマラソンの部	9:40	宮古地区合同庁舎前

宮古市ハーフマラソンコース



沿道からの多くのご声援を
よろしくお願いします！

宮古市ふれあい発表会を開催！

市が合宿誘致した早稲田大学応援部約160人による夏
季合宿が8月27日(日)から9月5日(火)までの10
日間、グリーンピア三陸みやこで行われました。

同部の宮古市合宿は平成29年、令和4年に続いて3回目。
2年連続の来訪となりました。

この合宿は、東京六大学野球秋季リーグに向けた強化合
宿で、合宿期間中はリミダニ、チア、ブラスバンドのそれ
ぞれパートに分かれ練習に励みました。

早稲田大学
応援部の皆さん



また、9月2日(土)には市民総合体育館で「宮古市ふれ
あい発表会」が行われました。

学生服の応援団の迫力ある声と動き、チアの軽やかなダン
スと空中パフォーマンス、ブラスバンドの息の合ったハーモ
ニーが一体となった合宿の成果を披露していただきました。

多くの来場者は、素晴らしい演舞と演奏に大きな拍手を送
っていました。

問い合わせ 生涯学習課(68-9120)

耳寄り情報！

デジタル環境を整備！
フリーWi-Fiを導入しました



下記の施設に新たにフリーWi-Fiを導入しました。
中央公民館分館・津軽石公民館・山口公民館
千徳公民館・田老公民館・新里生涯学習センター

架け橋になろう！

7月6、7日に市内11校の中学2年生11名が秋田県大仙市を訪問し、交流を行いました。友好交流都市である大仙市とは、震災での復興支援を中心に交流を続けてきました。昨年度から、両市の生徒交流がスタートしましたが、コロナ禍のためオンラインでの交流となっていました。実際に直接交流ができたのは今年度が初めてとなります。

交流事業では、大仙市立太田中学校の理科の授業への参加や、英語の授業での地域紹介等を行いました。協議では、家庭学習の取り組み方について話し合ったり、ICTの使い方について交流したりしました。参加した生徒たちは、自己研修テーマを設定し、主体的に交流することで学びと絆を深めていました。

生徒からは「今後の学習や行事に生かしていきたい」と意欲的な感想が多くみられました。また、「大仙市の歴史や思いを学校の人に伝えたい」といった感想もあがりました。

交流事業後に発生した秋田県での豪雨災害の際は、参加した生徒の中から募金活動を呼びかける姿も見られ、両市の結びつきがさらに深まりました。



「宮古市・大仙市生徒交流」

「宮古市・室蘭市生徒交流」



8月1日から3日まで、市内11校の中学3年生21名が北海道室蘭市を訪れ、交流を行いました。現在は休止している宮古―室蘭間の定期フェリーが就航した2018年から行っている事業です。

交流事業では、いじめ防止について話し合う「むろらん子どもサミット」に参加しました。サミットでは、宮古市と室蘭市の中学生が5～7名のグループとなり、交流しました。自分の学校のいじめ問題への取り組みを発表するとともに、「いじめをなくすために自分たちができること」について協議しました。



参加者は室蘭のリーダーの話に熱心に耳を傾け、「自分になった考えを取り入れることができた」「みんなが安心して過ごせる学校を創っていきたい」と堂々と自分の考えを伝えました。

サミットのほか、函館市の五稜郭タワー、江戸時代に南部藩士が沿岸警備にあたった南部藩陣屋跡など、岩手県や宮古市に縁のある史跡を見学し、見識を深めました。

各校のリーダーは「交流で築いた絆を大切にしたい。参加できたことに誇りをもってこれからも積極的に活動していきたい」と今後の活動に向け決意を新たにしました。



拓本体験の様子

令和5年7月29日・30日
「どきどき！発掘おしごと体験」
を開催しました♪

拓本体験
完成品

土器の接合体験の様子

市民の皆さまに埋蔵文化財への関心を深めてもらうために行っている、発掘調査のおしごとが体験できるイベントです。崎山貝塚縄文の森ミュージアムが平成28年に開館してから毎年開催しており、今年で8回目の開催となりました。

当日は土器の接合体験や発掘体験、遺物洗い体験のほか、新たに拓本体験も行いました。拓本とは、画仙紙という和紙を使い、縄文土器の上に画仙紙を水で濡らして貼りつけたあと、墨がにじまないくらいに乾いたら、墨を付けたタンポという道具で優しく叩いて模様を写し取るものです。本来の拓本作業では墨を使いますが、今回の体験では、カラフルな仕上がりになるよう、墨だけでな

く、ピンク、橙色、黄緑、水色のインクを準備しました。

あらかじめ参加者には好きな土器や土製品を選んでもらい、色を付けてもらいました。体験中、色が濃く、はっきりとした色合いのものや、淡い繊細な色使いのものまで、個性あふれる拓本が完成しました。色とりどりの模様が浮かびあがってくる様子を見て、参加者から喜びの声が上がっていました。

作成した拓本は台紙に貼りつけ、体験記念品としてお持ち帰りいただきました。

2日間のイベントでは、計55人の方にご参加をいただきました。

📞 問い合わせ 埋蔵文化財センター(65-7527)

第26回企画展を開催しています

今年は北上山地民俗資料館所蔵資料の「北上山地川井村の山村生産用具コレクション(1,345点)」が国の重要有形民俗文化財に指定されてから20周年、当館のボランティア会である「小国分館友の会」が結成されてから10年目、そして来年11月には開館30周年を迎えます。この節目にあたる企画展として、これまでの活動のあゆみや、昔の生活文化について記録したり、調査したりした内容を紹介する企画展「失われゆく道具や技術」を12月24日(日)までの会期で開催しています。

昔の生活用具は、暮らしの移り変わりとともに使われなくなると、何に使われた道具なのかが分からなくなってしまうものも多くあります。それを調べて写真や映像などの記録に残して後世の人に伝えることも当館の大切な役目です。展示では、樹皮を筒状にして容器を作る技術、キノコを乾燥させて「蚊いぶし」(蚊よけ)として利用する事例、足のすねを保護する「はばき」を織る道具の特徴などについて、実物資料を展示するとともに、研究者の解説を紹介します。

昔はどんな道具が使われていたのかを知ることができる企画展ですので、是非、見学にお越しください。



▲「サンナメ」の樹皮を筒状にして、蚊いぶしの容器を作る様子の再現
(協力 小国分館友の会)

📞 問い合わせ
北上山地民俗資料館
(76-2167)

